

**「第 3 次山形県科学技術政策大綱（案）」についての意見募集の結果
【パブリックコメント結果について】**

平成 28 年度からの 5 カ年間を見通した、本県の科学技術イノベーション施策の総合的な推進方策の指針となる「第 3 次山形県科学技術政策大綱（案）」について、県民の皆様から下記のような御意見をいただきました。

いただいた御意見を十分考慮して「第 3 次山形県科学技術政策大綱」を策定していきたいと思えます。今後とも科学技術施策への御協力と御理解をお願いいたします。

1 意見募集期間 平成 28 年 1 月 22 日～平成 28 年 2 月 19 日

2 提出された意見の件数 9 件

3 提出された意見の概要及び意見に対する県の考え方

※カッコ内のページは「第 3 次山形県科学技術政策大綱」における関連ページ

意見の概要		県の考え方
難解な文章表現について	<p>【意見 1】 国の第 5 期科学技術基本計画での「(科学技術イノベーションの) 基盤的な力の強化」が難しい表現で趣旨が伝わらない。日本再興戦略での「自動走行」は、何を自動走行するのでしょうか。</p>	<p>○「(科学技術イノベーションの) 基盤的な力の強化」については、表に具体的な内容を記載しております。</p> <p>○「自動走行」については、次世代の交通システムも含めた幅広い概念ですので、国の表現に準じております。(P7)</p>
社会環境の変化と本県の課題について (人口減少社会の到来、少子高齢化の進行)	<p>【意見 2】 大綱においては、「労働力確保や科学技術を担う優れた人材の獲得についての、対応策を練っていく必要があります。」「女性や高齢者が社会で活躍することを促進していく必要があります。」と課題提起がなされていますが、その対策が一切触れられていません。 女性・シニア層の活用への政策も是非検討し追加して頂きたいと強く希望しております。</p>	<p>○少子高齢化、人口減少の社会を迎えるなか、県内の産業や科学技術を支える人材の育成・確保が重要であることから、大綱の柱の一つと位置付けて取り組んでいきます。(P13-14, P28-32)</p> <p>○また、女性の力の活用については、女性研究者の視点を取り入れながら研究現場での活躍を促進していきます。(P14, P31)</p> <p>○シニア層の力の活用については、科学技術教育において技能や知識を活用していただけるよう記述を追加します。</p>
科学技術の未来を担う人材の輩出について	<p>【意見 3】 未来を担う児童・生徒・学生を中心に科学技術の指導強化する事は、政策の中でも最も重要であることは言うまでもありません。「これを勉強すると何が出来る」をしっかり明示し、子供達が「自分も将来ノーベル賞がとれるよう頑張る」と思ってもらえるような指導をして頂きたいと思えます。さらに体験後も自ら継続して学習を進める、その手助けができるような工夫を是非検討してほしいと思えます。</p>	<p>○科学技術が実社会と密接に関わり、私たちの暮らしに豊かさをもたらしていることなど、科学技術への理解が進むよう、ものづくり技術や最新の科学に触れて学ぶ取組み、効果的な周知啓発等を実施していきます。(P13, P29)</p> <p>○また、科学技術に関する素質を持つ子供を発掘し、その才能を伸ばす取組みや高校生同士がお互いの能力や科学的な感性を磨き合う場の創出を図っていきます。(P13, P14, P29, P30)</p>

	意見の概要	県の考え方
<p>県民の科学技術イノベーションの理解促進</p>	<p>【意見 4】 子供達に科学の目を持ってもらうためには、やはりその家族の皆様にも科学に興味と関心を持ってもらうことが必要と感じています。県民に周知する活動を進める際は、この点も意識して行って頂きたいと思います。</p>	<p>○産業科学館、大学、企業等が開催する科学イベントや体験学習等について、チラシやインターネット等を通じて広く周知を図っていきます。(P28)</p>
<p>科学との触れ合いの場の提供</p>	<p>【意見 5】 科学の楽しさや面白さを体験できる「青空教室」などもこちらから積極的に出向き開催して頂きたいと思います。</p>	<p>○科学技術に触れる機会を提供し、関心を深めてもらうため、科学や理科分野に関する知識や技能を有する人材を地域の公民館活動やPTA活動などで開催される科学教室の講師として派遣していきます。(P28)</p>
<p>学校教育等における科学・技術教育の充実</p>	<p>【意見 6】 全ての子供達に科学的な素地を形成してもらうためには、全員がしっかり学べるよう機会と時間を与えなければなりません。カリキュラム自体の修正と工夫が必要ではないかと思えます。</p>	<p>○理数教育、産業教育を担当する教員に対する研修プログラムを実施し、科学技術に対する指導力の向上を図る取組みを進めていきます。(P14,P30)</p>
<p>学校教育等における科学・技術教育の充実</p>	<p>【意見 7】 学校で点数を取るためだけの勉強だけではなく、山形の自然を利用した地学・生物学習や物理・化学実験ができる施設、3Dプリンタやロボット製作を通してメカトロニクス技術を継続して学ぶことのできる機関を是非作って頂きたいと思えます。科学技術振興のためにも、是非これと同様な「科学版山形ドリームキッズ」という組織を実現して頂きたいと強く思えます。</p>	<p>○理科が好きな児童生徒の科学力を伸ばすため、科学に興味を持つ中学生、小学生を募集し、科学的な思考の育成につながる教育プログラムを実施していきます。将来的には、科学の甲子園ジュニアの全国大会や日本学生科学賞の全国大会発表・各科学グランプリ受験を目標としていきます。(P13,P29)</p>
<p>高度な科学技術教育の推進</p>	<p>【意見 8】 山形らしいテーマを設定し、対象者も一般・学生・ジュニア部門と広く参加できるロボットコンテストの開催などを検討してはどうか。そのテーマとして農業分野、雪の活用、再生可能エネルギーなどを設定し県民に問題提起するとともに、取り組む人がものづくり技術・技能の習得、スキルアップにつながることを期待される。 産業系高校生を含む科学技術に興味・関心を持っている皆様に対し新たなチャンスを与えてもらえないか。</p>	<p>○山形らしいテーマによるロボットコンテストの開催等については、予算や内容を踏まえながら検討していきます。 なお、発明考案、創意工夫のアイデアを広く県民から募集し、表彰する取組みについては、(一社)山形県発明協会及び県により実施しています。(P29)</p>
<p>科学技術系教員の教育力向上</p>	<p>【意見 9】 指導の全てを担当教員が負うのではなく、民間の力を活用することも一つの手段ではないかと考えます。</p>	<p>○産業系高等学校においては、企業と連携した就業体験などを通じた専門的な産業教育や実践的なキャリア教育を行っていきます。(P13,P30) ○また、理数系教育においても、大学や研究機関等における世界最先端の科学技術に触れる取組みを実施するなど、大学等との連携を図っていきます。(P14,P30)</p>